

特記仕様書

- 1 工事名 太郎丸浄水場沈殿池手動弁（流入）外1件改良工事
- 2 工事場所 飯塚市 太郎丸 地内
- 3 工期 契約締結日の翌日から令和3年3月31日まで
- 4 機器項目 本工事に含まれる機器は下記とする。
 - (1) 沈殿池手動弁（流入）
流入ゲート
 - (2) 2号取水ポンプ
ポンプ、仕切弁、無水撃逆止弁、フート弁、ポンプ廻り配管
- 5 機器仕様
 - (1) 流入ゲート

項目	沈殿池手動弁（流入）
(1) 形式	角形（外ねじ式鋳鉄製）
(2) 開閉台形式	手動
(3) 寸法	□350mm
(4) 設計水深	0.925m（正圧）、0.925m（逆圧）
(5) 操作水深	0.925m（正圧）、0.925m（逆圧）
(6) 使用液体	表流水、常温
(7) 揚程	365 mm
(8) 開閉機	手動ハンドル式（右閉め 約86回転）
(9) 数量	4門
(10) 使用環境	屋外
(11) 主要部材	本体 FC200 扉体 FC200 本体シート SUS304 扉体シート CAC406 スピンドル SUS304 ボルト・ナット SUS304
(12) 塗装	制水扉 水道用液状エポキシ樹脂塗料 4回 開閉台 錆止め エポキシ系樹脂塗料 2回 上塗り ポリウレタン樹脂塗料 2回

(2) ポンプ類

2号取水ポンプ	
台数	1台
型式	陸上ポンプ
取扱液	表流水、常温
口径	φ150 10K フランジ
吐出量	2.7m ³ /min
全揚程	15m
電動機	出力 11kw 極数 4P 電源 3φ3W 200V 60Hz 始動 スターデルタ IE3 (プレミアム) IP44 (屋内)
主要材料	ケーシング FC200 羽根車 FC150 主軸 SUS403
付属品	圧力計 φ100 連成計 φ100 満水検知器 ドレンコック又は弁 その他必要なもの
塗装	メーカー標準

(3) 仕切弁

2号取水ポンプ	
台数	1台
型式	手動仕切弁
口径	φ150 10K フランジ
取扱液	表流水、常温
面間	
開閉方向	左開け
主要部材	弁箱 FC200 弁体 FC200 フタ FC200 弁棒 SUS403 弁体付弁座 SUS403 弁箱付弁座 SUS304

	2号取水ポンプ
塗装	内外面 エポキシ樹脂粉体塗装

(4) 無水撃逆止弁

	2号取水ポンプ
台数	1台
取扱液	表流水、常温
口径	φ150 10K フランジ
面間寸法	310mm
バイパス弁	あり
主要部材	弁箱 FCD450 上部カバー FCD450 弁体 SUS304 弁座 SCS13
塗装	内外面 エポキシ樹脂粉体塗装
付属品	無送水検知器付き

(5) フート弁

	2号取水ポンプ
台数	1台
取扱液	表流水
口径	φ200 10K フランジ
主要部材	弁箱 SCS13 弁体 SCS13 弁棒 SUS304 レバー SUS304

6 動作確認規約

事前に据付及び試運転検査記録書のブランクシートを提出のこと。

本機器の据付及び試運転調整は、監督員と協議のもとで行い、据付及び試運転調整後の動作確認等は、受注者において全責任を負うこと。

受注者は試運転調整前に芯出し等の段階確認を受けなければならない。

試運転記録は下記を標準とする。

試運転記録それぞれの項目において写真撮影をおこない、試運転写真として提出すること。

沈殿池手動弁（流入）編

測定項目	基準値	備考
芯だし記録 本体の水平差 横倒れ 本体の垂直差 前倒れ	2/1000 mm以内	
止水部の隙間	0.04 mm以内	止水できること
芯ずれ (開閉器機と扉体のずれ)	1/1000 mm以内	
動作確認	スムーズに動作すること	

陸上ポンプ編

試運転前

測定項目	基準値	備考
配管接合部	水漏れがないこと ボルトの弛み等がないこと	
絶縁抵抗	100MΩ以上	絶縁抵抗計にて各相測定
芯出し記録（面間）	面間:メーカー基準値以内 最大値と最小値の差:メーカー基準値以内	0° ,90° ,180° ,270 の 4 点測定
芯出し記録（芯ずれ）	最大値と最小値の差:メーカー基準値以内	0° ,90° ,180° ,270 の 4 点測定

試運転中

測定項目	基準値	備考
吐出量	性能曲線上にあること	締切運転及び仕様点にて測定
吐出圧力	性能曲線上にあること	締切運転及び仕様点にて測定
吸込圧力	-6m 以内	締切運転及び仕様点にて測定
電流値	定格電流値以内	締切運転及び仕様点にて測定 クランプメーターにて各相測定
ポンプ部軸受け温度	75° 以下かつ周辺温度+40℃以内	運転から 1 時間まで一定間隔で測定
モーター部軸受け温度	75° 以下かつ周辺温度+40℃以内	運転から 1 時間まで一定間隔で測定
振動	4 極電動機:0.05mm 以内 2 極電動機:0.03mm 以内	仕様点にて測定 モーター、ポンプ、ベースの 3 箇所測定
騒音	異常音のないこと	

7 ポンプ、電動弁、無水撃逆止弁及び付属品の選定について

ポンプ、電動弁、無水撃逆止弁及び付属品の選定にあたっては、事前に機械、電気（制御含む）および水撃等について、個体差を含めて全体的な送水ポンプ設備の制御を含んだ技術的検証を行い、監督員と協議のうえ選定すること。ただし、検証により、別途必要となるものについては、受注者の負担により行うものとし、承認のうえ決定する。

8 現地工事について

- (1) ボルト・ナット・フランジガスケットは全て更新すること。ボルト・ナットは SUS304 を標準とするが、浄水池内については SUS316 とすること。また、焼付けあるいはかじりが発生しないよう締め付けること。
- (2) 異種金属接触腐食の恐れがある箇所については、電氣的に絶縁し、腐食の無いように施工すること。
- (3) 沈殿池手動弁（流入）の施工は1度に片系のみ現地工程を計画すること。
また、施工していない系統は浄水場運転に使用するため、浄水場運転に支障のない仮設を行うこと。
- (4) 流入渠の浚渫後の汚泥は監督員が指示する飯塚市の浄水場天日乾燥床に運搬すること。
- (5) 戸当り、開閉台装置等のアンカーボルト取付は、十分強度を保持できるよう、躯体鉄筋と溶接する。基礎ボルトと L 形筋の溶接は異材となるため、溶接材料は十分な検討を行い選定すること。なお、施工前、溶接完了時、施工後それぞれの状況を写真撮影すること。
- (6) 据付にあたっては、正確に芯出し調整を行うこと。
- (7) 止水面の隙間は、正確に調整を行うこと。
- (8) 施工にあたっては、安全を考慮し行うこと。
- (9) 現地工事開始 2 週間前までに現地施工計画書、現地工程表を提出すること。現地施工計画書には機器搬入・搬出方法、既設機器撤去方法・改良機器据付方法を含めた現地工程表の項目ごとの施工方法を記載すること。現地工程表には機器搬入から既設ポンプ撤去・改良機器据付試運転を含めた現地工事開始から終了までの日付スケジュールとそれぞれ 1 日のスケジュールを記載すること。

9 仮設について

通常は着水井、薬品注入点、急速攪拌池、流入渠、フロック形成池の順で浄水工程が進む。しかし、沈殿池手動弁（流入）を改良するにあたり、流入渠に止水可能な部分がないため、着水井の流入管のフランジから硬質ポリ塩化ビニル管（VU 管及び一部鋼管）を用いて薬品注入点、急速攪拌池、流入渠を経由せずに直接、原水を沈殿池手動弁（流入）の施工を行っていない系統のフロック形成池に送れる仮設管を施工すること。また、仮設管は薬品を直接注入でき、工事の進捗に合わせて片系ずつ切り替えられる構造とすること。

10 完成図書について

製作仕様書、工場検査成績書、現地試運転報告書、芯出し記録、水撃作用の考察、機器図、取扱説明書、保証書等を 3 部提出すること。

安全・訓練等の実施に関する特記仕様書

1 安全・訓練等の実施

本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着手後、原則として作業員全員の参加による月当たり半日以上の時間を割り当てて、下記項目から実施内容を選択し安全・訓練等を実施するものとする。

- (1) 安全活動のビデオ等視聴覚資料による安全教育
- (2) 本工事内容等の周知徹底
- (3) 本工事安全施工技術指針等の周知徹底
- (4) 本工事における災害対策訓練
- (5) 本工事現場で予想される事故対策
- (6) その他、安全・訓練等として必要な事項

2 安全・訓練等の活動計画及び報告書の作成

施工に先立ち、工事内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成した「安全・訓練等の活動計画書」（様式-1）を提出し、事前に承認を受けなければならない。

また、活動結果について実施の都度、「安全・訓練等の活動報告書」（様式-2）を監督員に提出し報告しなければならない。

3 安全・訓練等の実施状況報告

安全・訓練等の実施状況を実施ごとに、写真等と工事報告（工事日誌）に記録し、「安全・訓練等の実施状況報告」とともに報告しなければならない。

工事カルテ・登録に関する特記仕様書

受注者は、受注時、変更時、完成時の各時点において工事請負金額が 500 万円以上の工事について、工事实績情報サービス（CORINS）に基づき、工事实績情報として「工事カルテ」を作成し監督職員の確認を受けた上、受注時は契約後 10 日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から 10 日以内に、完成時は工事完成後 10 日以内に登録申請しなければならない。

また、(一財)日本建設情報総合センター発行の「工事カルテ受領書」が受注者に届いた際には、その写しを直ちに監督職員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が 10 日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

様式 25-7

特 記 仕 様 書

本工事は、建設副産物情報交換システム「COBRIS」（以下「COBRIS」）の登録対象工事であり、受注者は施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は、速やかに「COBRIS」にデータの入力を行い、建設副産物情報交換システム工事登録証明書、再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）の様式を出力し監督員に提出すること。

工事登録時に必要となる利用申し込み等、システムに関する問い合わせは次による。

建設副産物情報センターHP URL：<http://www.recycle.jacic.or.jp/>